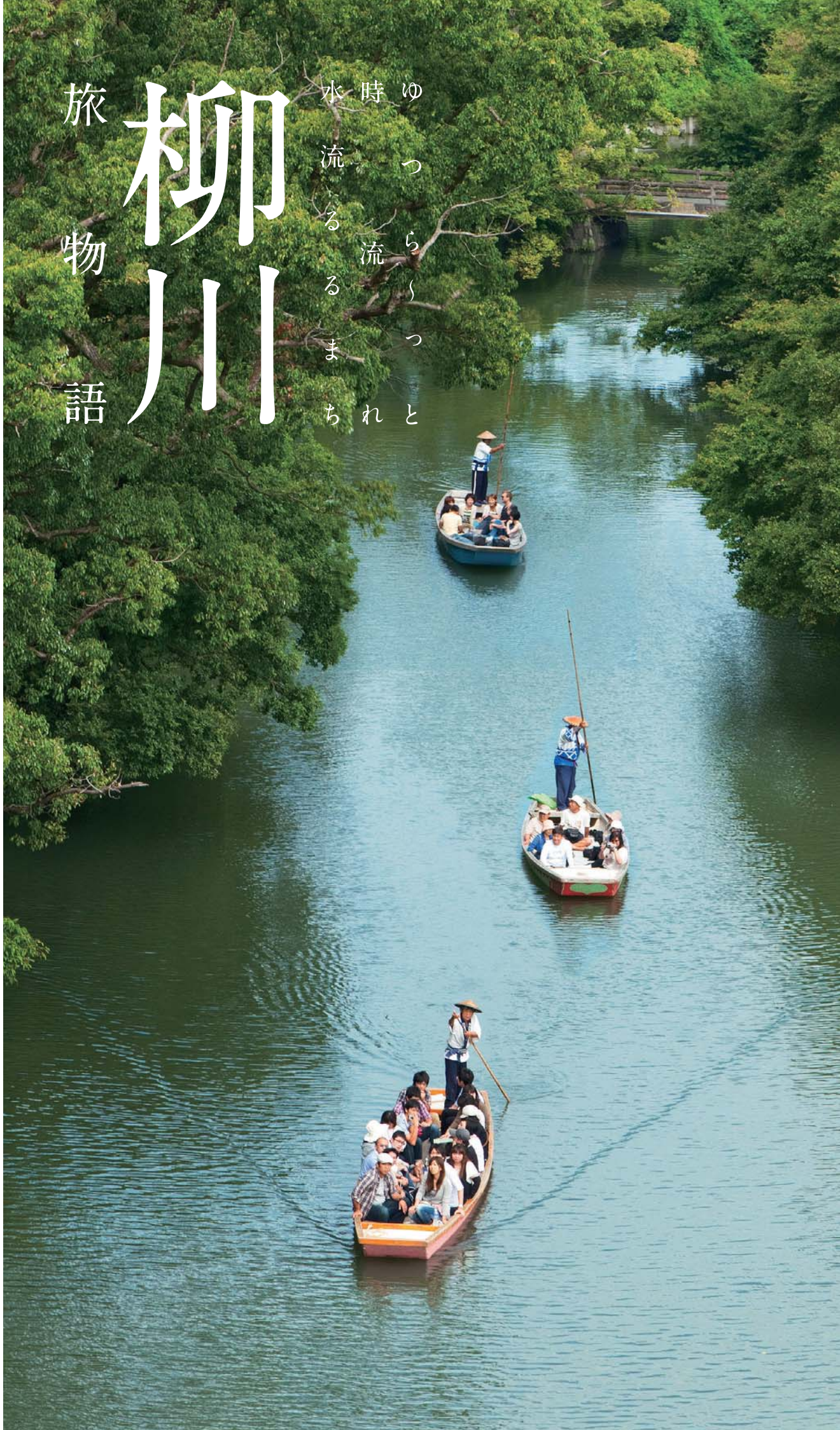


旅  
物  
語

# 柳川

ゆ  
つ  
ら  
く  
つ  
と  
時  
流  
る  
ま  
ち  
れ  
と  
水  
流  
る  
ま  
ち  
れ  
と





おいでませ、水郷柳川。

まずは  
とぎ  
季を愛でる  
川下りへと

煉瓦造りの壁を水面に映す「並倉」。国の登録有形文化財の老舗味噌蔵の建造物です。三柱神社、鋤崎土居、瀬高水門から並倉や日吉神社を通り、名勝立花氏庭園、終点の沖端へ。掘割沿いの木々の間に、歴史と暮らしを感じる風景が移り変わっていく川下りコースです。  
平成27年3月には「国指定名勝水郷柳川」として指定を受けました。



# 柳の新芽輝く春 水面きらめく夏 紅葉の彩り映す秋 そして、冬のこたつ舟

たちが、竿ひとつで、ゆつらゆつと舟を進めています。

## 暮らしかから生まれた川下り

月が出るのを待って、どんこ舟に乗って宴を楽しんだり、どんこ舟競争をしたりと、郷土の記録に残るその暮らしの中の遊びが「川下り」となったのは、訳があります。

柳川は詩聖、北原白秋の故郷。その少年時代を描いた柳川出身

の小説家、長谷健原作の『からの花』が映画となり、昭和29年に巨片が行われました。柳川の風景が全国のスクリーンに映し出されたことから、「あの舟遊びを」との声が数多く寄せられたのです。やがて、地元は一念発起し、もてなしとしての「川下り」が始まりました。

木陰さす掘割沿いは、桜や菖蒲、紅葉と四季折々に彩られ、狭い水門をくぐったり、船頭さんの歌に耳を傾けたり。時には白秋の童謡が、道行く人のもとへも風によって運ばれてきます。

待ちぼうけ

待ちぼうけ

ある日せつせと野良稼ぎ

そこに兔がとんで出て

ころりころげた木のねつゝ

再びきこえてくる水音に、思わず時間を忘れる川下りです。



予約なしでも乗船できるのがうれしいところ。コースは約70分。予約をすれば、舟の上で、郷土料理の鰻の蒸籠蒸しやお酒など、宴も楽しむことができます。夜の川下りも楽しめます。



掘割の水が大変汚れた時代がありました。昭和50年代より、地元の人びとの懸命な努力が積み重ねられ、今の風景があります。その物語は、宮崎駿製作、高畑勲監督脚本のドキュメンタリー映画『柳川堀割物語』となりました。この掘割の水は広大な柳川の農地を潤しながら市内を縦横に走り、有明海へとつながっています。



川下りの終着点にほど近い、「柳川藩主立花邸 御花」。

元文3年(1738)、柳川藩五代藩主、立花貞俣さだよし公が柳川城の南西隅に、二の丸から建物を移築します。政務を司る本丸御殿とは別に建てられた別邸御花島。これが、今の御花であり、庭とともに「立花氏庭園」として、国の名勝に指定された空間です。

100畳の大広間の開け放たれた窓が切り取る黒松の緑。

座敷から眺める鑑賞式の庭園「松濤園」は、約280本の黒松しょうとうえんに1500個の庭石、石灯笼14基が配され、2つの島と多数の岩島が浮かぶ水面は、冬には飛来する野鴨が群れ遊びます。

藩主一族の暮らしを今に

元和6年(1620)から明治4年(1871)の永きに渡り、こ

の地を治めた立花家。

「立花家史料館」には、歴代藩主の甲冑に、華やかな婚礼調度や夫人の装束・装身具、そして藩主愛用の茶道具、能面・能装束など、立花家の歴史を彩る大名道具の数々が飾られています。

中でも、江戸中期より受け継がれる代々の雛人形とその調度の数々は、本物と変わらぬ繊細な細工と種類の多さに感嘆の声があげられます。それらを使って遊んでいた歴代のお姫様の暮らしに思いを馳せる、楽しみ多い史料館です。

雛人形のお道具のなんと細やかなこと。

受け継がれる建築と庭。

ここは、暮らしを愛おしんだ

立花家の別邸でした。



1 初代柳川藩主、立花宗茂公肖像 / 2 立花宗茂公所用「金地三日月軍扇」 / 3 江戸時代後期の有職雛と雛調度 / 4 立花家史料館 / 5 立花宗茂公着用の甲冑「伊予札縫延栗色革包仏丸胴具足」 / 6 明治43年(1910)に迎賓館として建てられた西洋館







大名文化と  
藩主の思いにふれる空間。  
名勝・  
立花氏庭園  
美の系譜

「名勝・立花氏庭園」は、7000坪にもおよぶ、国の名勝です。「柳川、御花」の西側にある庭園「松濤園」と立花邸が、昭和53年に国の名勝に指定されました。平成23年に敷地全体の規模で追加指定されました。



女の子が生まれた最初の年のお祝「初節句」に、子どもの無事な成長を願ってひな人形を飾るひなまつり。柳川では、さらにそのひな壇のまわりに、色とりどりの「さげもん」を飾る慣わしがありますが、それを訪れた人びとも見て楽しんでからおうというのが「さげもんめぐり」の始まりです。

女性としての美しさ、強さ、誇りなどを身に付けて欲しいという親心が、その飾りひとつひとつに込められています。

毎年、15万人の方がおいでますまつりです

毎年、2月11日から4月3日の間、「おひな様始祭」に始まり、もてなしの心にあふれた「恵美須ひな小路」などもありつつ、まちは「さげもん」で彩られます。

雅な衣装に身を包んだかわいらしい稚児たちが、舟で繰り出す「おひな様水上パレード」は、さげもんめぐりの見所のひとつ。祝いの風景あふれる、柳川の春です。

ひと針、ひと針、思いをこめた飾り。家々のさげもんを見て歩く楽しみが、いつしか柳川の春の風物詩となりました。

# 春を告げる

# さげもんめぐり



さげもんは、布細工ものと柳川まわりを交互に7列7個の49個をつるします。人生50年と言われた時代に女性は二歩引いて49年と配慮した意味を含ませ、さらに申共になきな柳川まりつ連を加え計51個とする事により、人生50年よりも長生きできるように願うがめしました。元々は奥女中の暗き教養のひとつとして、お姫様が生まれると琴爪入れなどに使う袋物を健やかな成長を願い織り贈ったのがはじまり。やがて吊るし雛と姿を変え、柳川まりつともにな承されてきました。





子どもたちも楽しみにしている「おひな様水上パレード」の風景。お稚児さんを乗せた十数艘もの舟が、掘割をゆつりと進んで行きます。







三柱神社や柳川城址の桜に弁天の桜  
 並木、毎年16万人が訪れる中山の大藤。  
 干拓地を黄色に染める夏の両開のひま  
 わり園に掘割の水面に映る秋の紅葉と、  
 柳川の四季は色あい豊かです。

# 花の色 まつりの音

桜に藤色、おひさま色、  
 さげもんの赤。  
 水天宮の子ども囃子、  
 どろつくどんの銅鑼の音。

そして、柳川は、今も数百の神社仏閣  
 があり、風流や祇園まつりといった、集落  
 が受け継ぐまつりが多いまちです。水天宮  
 や、おにぎえの囃子の太鼓や笛の音、どん  
 こ舟の上で聞く白秋祭の花火の轟音。  
 五感に響く、柳川の花とまつりです。







柳川雛祭り さげもんめぐり／2月11日～4月3日 a  
 国の寿酒蔵まつり／3月第1土・日曜日 b  
 流し雛祭／4月3日 c  
 桜まつり・流鏑馬(三柱神社)／3月下旬～4月上旬 d  
 くもて網むっかけ体験／4月～10月 e  
 中山大藤まつり／4月中旬～下旬 f  
 沖端水天宮祭(舟舞台)／5月3日～5日 g  
 田中吉政公顕彰祭／5月下旬 h  
 花しょうぶ／5月下旬～6月上旬 i

うなぎ供養祭／7月中旬  
 灯り舟／7月中旬～9月上旬  
 中島祇園祭り／7月第4土曜日 h  
 柳川ひまわり園／7月中旬～7月下旬 i  
 水郷柳川夏の水まつり「スイー水ーすいー」／8月上旬  
 鈴虫まつり(日吉神社)／8月下旬 j  
 有明海花火フタタ／8月下旬 k  
 檀一雄文学顕彰祭／9月下旬

三柱神社秋季大祭・おじぎえ(どろつくどん)／10月上旬 k  
 安東省菴顕彰祭／10月上旬  
 風流／10月上旬  
 菊の節句／10月中旬  
 白秋祭水上パレード／11月1日～3日 l  
 山王菊花展／11月上旬  
 柳川よかもんまつり／11月下旬

こたつ舟／12月～2月末  
 長谷健とうふ祭り／12月上旬  
 白秋生誕祭／1月25日  
 日吉神社節分祭／2月初旬 m  
 水落ち／2月中旬～下旬 n  
 お堀開き／3月1日

冬

秋

夏

春





柳川は、我が詩歌の母胎  
詩聖、北原白秋が生まれ育ったまちです。

# 白秋が 愛した柳川

北原白秋（本名・隆吉）は、時代を超え人びとの心に残る作品を数多く残した詩人であり、童謡作家であり、歌人です。

明治18年（1885）、酒造業を営む北原家に生まれた白秋は、「トンカジョン（大きな坊ちゃん）」と呼ばれ、6人の平家落人が港を開いたという「六騎伝説」が語り継がれる沖端で華やかな少年時代を過ごしました。有明海を通じて行き交うものと人。生命力と天性の明るさに富んだ作風は、このまちそのものでした。

しかし白秋が16歳の時、大火で酒蔵が全焼し、家は傾きます。傷心の白秋は没頭していた詩歌の創作へとさらにのめりこ



み、やがて家出同然で上京。与謝野鉄幹、石川啄木といった才能とも交流しながら、26歳の時に書き上げた処女詩集『邪宗門』の耽美的な表現で賞賛をあびます。その2年後に出した詩集『思ひ出』は、故郷柳川と破産した実家に捧げる懐旧の情で、白秋の名を世に知らしめました。57年の生涯で2万点以上の作品を残した白秋。山田耕筰との『からたちの花』などは日本の心ともいえる童謡の傑作です。

白秋がずっと抱いていた、帰りたくても帰れない故郷柳川への思い。されど、昭和3年、20年ぶりの帰郷を柳川の人びとは熱狂的に迎えたのです。

この生家は、焼け残った母屋を保存活動によって復元したもので、記念館とあわせ、その激動の人生と人間像に迫る展示は心を揺さぶります。絶筆となった『水の構図』に、「柳河は我が詩歌の母體」と遺した白秋。柳川を愛してやまなかった、その思いにふれる沖端界隈の散歩道です。

● 北原白秋生家記念館  
柳川市沖端町55番地1  
☎ 0944-72-6773  
開館時間／午前9時～午後5時 休館日／年末年始 観覧料／大人500円、高校生・大学生450円、小・中学生250円



# 300年前と変わらぬ 旧街道と旧小路 そごろ歩き

「柳川の道は、300年前の江戸時代の地図を見ても歩ける」と言われるほど昔のままの道が残るまち。辻町は、田中道（久留米柳川往還）、三池街道といった多くの道の起点となっていました。敵の侵入を防ぐために枡形（直角）に曲がった道や道標となる追分おひわけの碑は、その名残です。

そして、武士や町人などが暮らす地域を「小路」と呼んでいました。「江戸小路」や「隠居小路」、「北長柄小路」など、今も通称として残り、当時の暮らしの物語が潜んでいます。「旧戸島家住宅」のような武家屋敷も受け継がれ、城下町の風情感じるまち並みを、地図を片手にそごろ歩いてみてはいかがでしょうか。

● 旧戸島家住宅  
柳川市鬼童町49番地3  
☎ 0944・73・9587  
開館時間／午前9時～午後5時 休館日／毎週火曜日（火曜日が祝日の場合はその次の日・12月29日）1月3日 観覧料／一般（小学生以上）100円（白秋生家人館者は無料）、抹茶とお菓子は有料

柳川市役所南、掘割沿いの坂本小路で銀杏を集める子どもたち。この道は、「日本の道百選」に選ばれた道で、春は桜、秋は美しい紅葉が小路を彩ります。

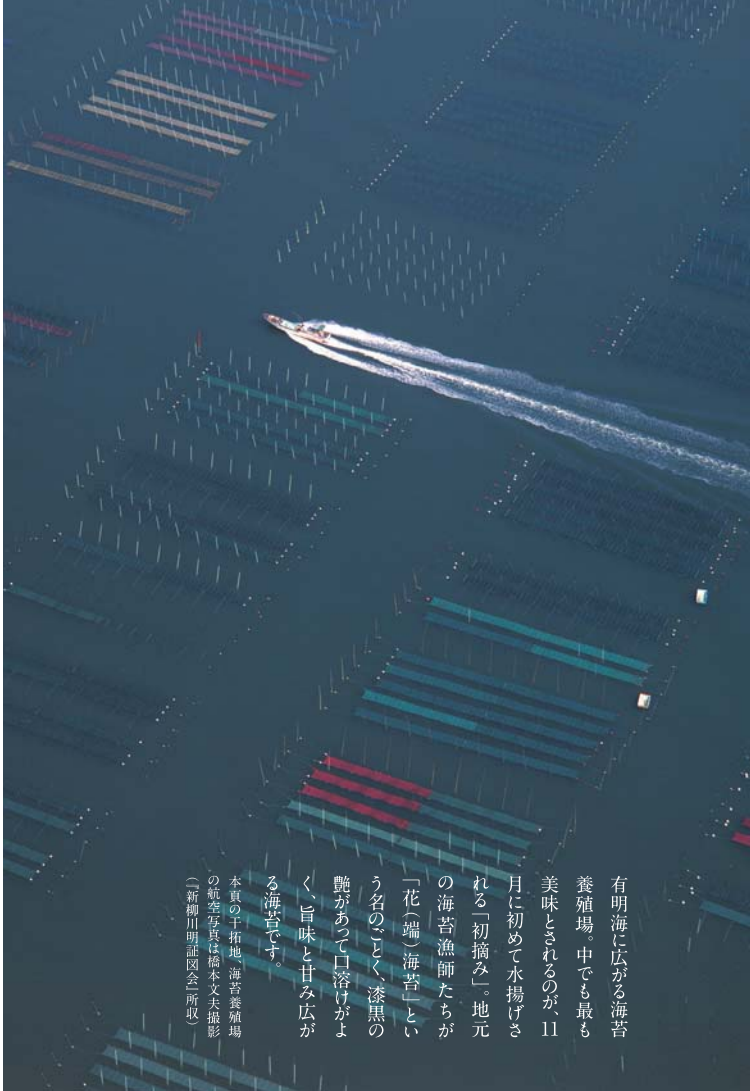


江戸小路を抜けて大通りへ出ると、柳川藩中老・吉田兼儒の隠居後の住まいとして建てられた「旧戸島家住宅」に出会えます。数寄屋風の意匠を持つ葺葺屋根の建物で、文政11年（1828）築と伝えられ、掘割から水を引き入れた池を持つ国の名勝庭園とともに、趣のある空間です。内部には、江戸時代の流行が随所にとり入れられ、李白の漢詩「獨酌」が彫られた杉戸など、文人趣味の意匠が多くみられます。地元の方々の抹茶の道場として、期間があり、先人たちが語り合った座敷でいただく一服のお茶は、格別なものがあります。





魚鱗状に広がる干拓地の麦秋の風景。柳川は、米、麦や大豆、茄子、アスパラなどの野菜、イチゴのあまおう、巨峰などのフルーツと、いずれも県内有数の産地です。



有明海に広がる海苔養殖場。中でも最も美味とされるのが、11月に初めて水揚げされる「初摘み」。地元海苔漁師たちが「花（端）海苔」という名のごとく、漆黒の艶があつて口溶けがよく、旨味と甘み広がる海苔です。

本頁の干拓地、海苔養殖場の航空写真は橋本文夫撮影（新柳川明証図会所収）



# 海と農 食べめせ柳川

干拓の風景は先人の叡智。  
有明の幸ある柳川には、  
九州屈指の魚市場もあり。

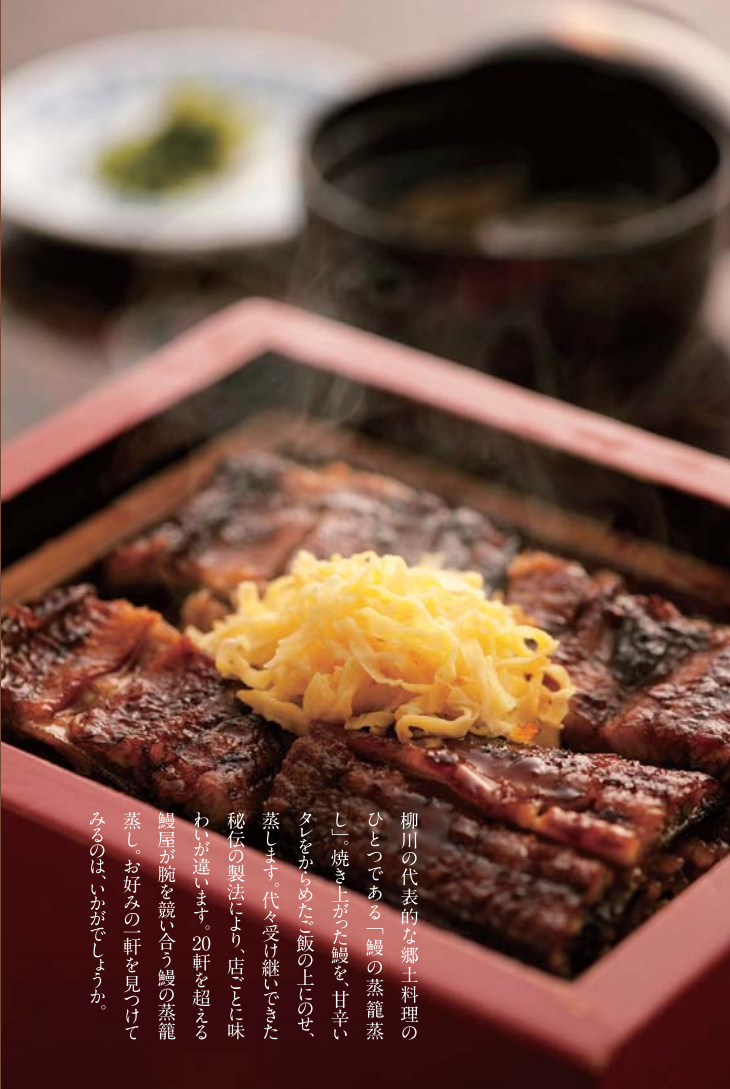
最大6メートルという日本一の干満差がある有明海は、干潮になると広大な干潟が現れます。

中世より、この湿地に水路網を巡らせつつ利用してきた先人たちが江戸時代になると、柳川城主であった田中吉政が32キロメートルにわたる「慶長本土居」を築き、機械もない時代に、干拓事業で広大な耕地を得ます。今の柳川の風景は、1000年以上にわたる、先人の生きてきた証です。

この干満差と、矢部川から流れ込む豊かな栄養分によって実に多くの種類の魚介類が生息する有明海は、「宝の海」とよばれます。

沖に見えるのは、海苔養殖場の風景。海と太陽の恵みを受け、美しい海苔が育つのです。





柳川の代表的な郷土料理のひとつである「鰻の蒸籠蒸し」。焼き上がった鰻を、甘辛いタレをからめた、飯の上のせ、蒸します。代々受け継いできた秘伝の製法により、店ごとに味わいが違います。20軒を超える鰻屋が腕を競い合う鰻の蒸籠蒸し。お好みの一軒を見つけてみるのはいかがでしょう。



有明海の幸は、かたちも味わいも独特。「ムツゴロウ」、「タイラギ貝」、「メカジヤ(写真上左)」、「クツゾコ(写真上右)」など、柳川にはその珍しい魚介の数を堪能する、伝統の食文化が受け継がれています。筑紫町の筑後中部魚市場は、魚種、取扱量ともに九州屈指を誇る魚市場。夜明け前か、競りの威勢のいい声が響き渡ります。



中島の朝市は訪れるなら朝、クーラー持参がおすすめです。



ささぎ、ゴボウを敷いた土鍋に、どじょうを丸ごと入れ、鶏卵でとした「柳川鍋」。栄養価が高いどじょうは、体を温め生気を増す働きがあるとされています。



夕日に照らされるくもで網。伝統的な漁法で、満ち潮にのってきた魚を大きな網をおろすくもりとります。干潟も海も染め上げる有明海の夕日は忘れえぬ風景です。くもで網の体験も可能です。

1時間 千円  
期間(4月~10月)  
問合せ先  
柳川市むつこランド  
0944-7210819

### 有明の幸に鰻の蒸籠蒸し

柳川といえば、「鰻の蒸籠蒸し」と「柳川鍋」。各店秘伝の味わいは、何度訪れても楽しませてくれる郷土の味です。そして、柳川のまぢを歩くと気づく魚屋の多さは、九州屈指の魚市場「筑後中部魚市場」があり、毎朝、全国から集まった新鮮な海の幸が競り落とされているゆえ。ワケノシノス(イソギンチャク・若いもん)の尻の穴の意味)にメカジヤ(ミドリシヤミセンガイ)、ムツゴロウなど、名前も形も珍しい有明の幸の数々は、その物語や食べ方に耳傾ければ忘れ得ぬ味わいとなります。

### アジアを感じる中島の朝市

そんな柳川らしい食のお買い物なら、大和町に江戸時代から続く「中島の朝市」へ。毎朝、新鮮な海産物や野菜、お惣菜がずらりと並び、「寄らんかんも〜」、「安かばんも〜」とびかう柳川弁。アジアの熱気を感じる市場です。





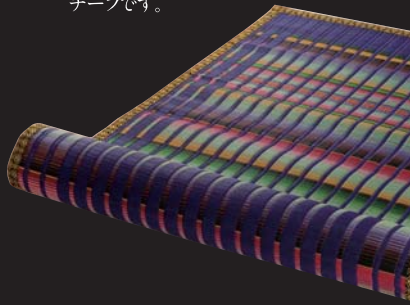
柳川まり  
菊や椿、花しょうぶなど華やかな模様をもつ柳川まり。ひとつひとつ糸を手で巻いてつくる芸術品です。

花ござ

柳川では畳表・花ござなどの草製品がつられています。中でも、「掛川織」は、繊細な模様と鮮やかな色あいで、福岡県特産工芸品に指定されています。



柳川風  
正月の縁起物とされる民芸品。日本の昔話の主人公、坂田金時(金太郎)がモチーフです。



さげもん

柳川には、昔から女の子が生まれた初節句に、子どもの無事な成長を願って、「さげもん」を飾る慣わしがあります。一吊るし 51個を、女性たちがひとつひとつ縫い上げる芸術品です。



柳川と相撲

柳川は第10代横綱、雲龍久吉(うんりゅうひささち)の故郷。酒や味噌など、相撲にまつわるお土産があります。



神棚

家に神道の神札をまつための神社を模した棚。柳川には、数少ない神棚職人が残っています。



海苔

豊穡の有明海で育った海苔の美味しさは格別です。中でも「初摘み」は、質が高く、口溶けの良い海苔です。

柳川のお土産は、色とりどりです。手づくりであるのがうれしいところ。お茶文化がさかんなことから、和菓子や昔ながらのお煎餅、洋菓子などの甘味もたくさんあり、酒や味噌、醤油といった老舗蔵の醗酵食品も揃うのが柳川。お気に入りのお土産を見つけてみてください。

伝統の手技あり  
味わい深し  
物語ある  
お土産  
あるばんも



ブランド認定品はこのマークが目印

柳川の特産品で、新たなお土産をと始まった「食べめせ柳川」。その取り組みから生まれた特産品や、柳川ブランドの認定品も人気です。

こちらの商品は、おいでメッセ柳川で、お買い求め頂けます。  
おいでメッセ柳川  
柳川市京町83-2(辻町交差点側)  
☎ 0944-72-9510



思い出をお土産に  
体験プログラム

柳川には、ブランドづくりから生まれた、いろんな体験ができるプログラムやツアーがあります。思い出も、ぜひ旅のお土産に。詳しくは各窓口にお問い合わせください。



醤油づくり体験 / 森山醸造食品(有)  
☎ 0944-72-2716



味噌づくり体験 / アサヒ醸造株式会社  
☎ 0944-73-2135

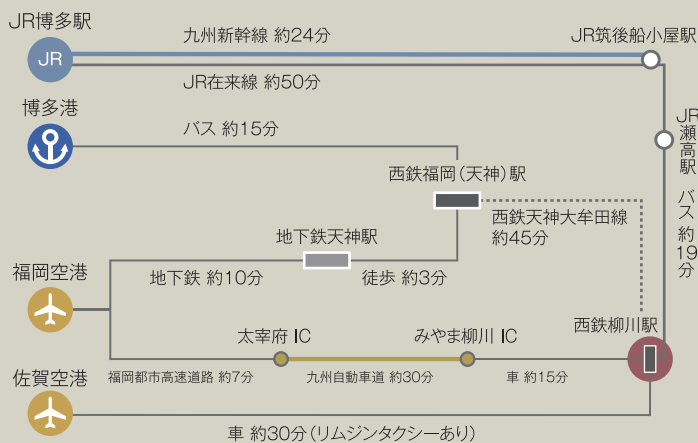


宝じり入れ神棚づくり / 古賀神棚店  
☎ 0944-72-4461

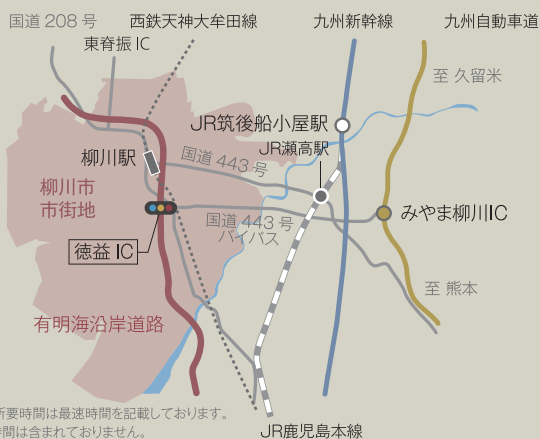


# おいでませ柳川

西鉄天神大牟田線で  
福岡(天神)駅から、約48分。



東脊振ICから40分。 **みやま柳川インターから柳川市市街地まで約20分。**



○各区間の所要時間は最速時間を記載しております。乗り継ぎ時間は含まれておりません。

## 川下り

ふらりと来ても  
予約なしでご乗船できます。  
雨の日もまた風情あり。

- 柳川観光開発(株)  
☎ 0944-72-6177
- (株)大東エンタープライズ  
☎ 0944-72-7900
- 水郷柳川観光(株)  
☎ 0944-73-4343
- (有)城門観光  
☎ 0944-72-8647
- 柳川リバー観光(株)  
☎ 0944-75-5050

乗船場/西鉄柳川駅から歩いて5~10分 (P.6のMAP参照)  
料金/乗合船(中学以上1500~1600円/子ども800~820円)  
営業時間/午前9時~  
(所要時間 約70分)

- 以下は、ご予約ください。
- 夜の川下り
  - うなぎの蒸籠蒸し、お酒など、お食事の手配



## 柳川の宿と温泉

ゆつら〜つと温泉、そして宿泊。

- 旅館・ホテル
  - 御花 松濤館  
柳川市新外町1 ☎ 0944-73-2189
  - 白柳荘  
柳川市新町16 ☎ 0944-73-1188
  - 若力旅館  
柳川市三橋町高畑327 ☎ 0944-72-2009
  - 阿久根旅館  
柳川市三橋町高畑197 ☎ 0944-72-2483
  - さいふや旅館  
柳川市椿原町45 ☎ 0944-72-2424
  - 柳川ビジネスホテル  
柳川市三橋町高畑243-1 ☎ 0944-74-1500
  - 松葉屋(ビジネスホテルやまと)  
柳川市大和町中島673 ☎ 0944-76-3212
  - ホテルニューガイア柳川  
柳川市三橋町下百町1-14 ☎ 0944-75-1705
- 天然温泉の宿
  - かんぼの宿 柳川(立寄湯あり)  
\*東隣に「からたち文人の足湯」(無料)があります。  
柳川市弥四郎町10-1 ☎ 0944-72-6295
  - 柳川温泉ホテル 輝泉荘(立寄湯あり)  
柳川市三橋町柳河874 ☎ 0944-73-3182
- 天然温泉
  - 柳川総合保健福祉センター「水の郷」  
柳川温泉 南風(はえんかぜ)  
柳川市上宮永町6-3 ☎ 0944-75-6205

柳川には、摂氏50度前後の天然温泉が湧出しています。温泉にのんびりつかる柳川の旅はいかがですか。





### 柳川市産業経済部観光課

〒832-8601 福岡県柳川市本町87番地1  
 TEL 0944-73-8111 / FAX 0944-73-2516  
 URL <http://www.city.yanagawa.fukuoka.jp/>

### 柳川市観光案内所

〒832-0065 福岡県柳川市沖端町35番地  
 TEL 0944-74-0891 / FAX 0944-72-9013  
 URL <http://www.yanagawa-net.com/>



### 柳川市公式スマホアプリ

柳川のおでかけ情報を、  
 モバイル端末で、いつでも。



🔍 「柳川旅物語」で検索

